



題字は満井秀城師＝本願寺教学伝道研究所所長(廿日市市)

「隣人を自分のように愛しなさい」思い一致

宗派超え路上生活者支援

広島市内にある二つのキリスト教会の信徒が共同で、路上生活者への炊き出しを続けている。カトリック幟町教会(中区幟町)と日本聖公会広島復活教会(中区上幟町)の有志たち。宗派を超えた社会活動は信徒同士の間で、帯感を深め、信仰に裏打ちされた実践は社会との絆を広げている。

(伊東雅之)

偶数月の第4日曜日から午後5時、復活教会に隣接する上幟町公園に食欲をそそるカレーの匂いが漂う。約50人の路上生活者に手作りカレーライスを手渡すのは、両教会に所属する約20人の主婦や会社員、中学、高校生たち。「お元気でしたか」「おまじょおやま」「すみません、お代わりを」。自

広島のカトリックと聖公会 共同でカレー奉仕



温かいカレーライスを集まった人たちに振る舞う両教会の信徒たち(奥)＝広島市中区上幟町の上幟町公園

然に交わされる言葉、互者のデズモンド・ツツ南の顔に笑みが漏れる。アフリカ聖公会名誉大主教の離婚問題をきっかけにカトリックから分離。結婚観などに違いはあるが、聖書の解釈などに大きな違いはないという。

深まる連帯感 社会との絆広げる

「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の教えから思いはすぐに一致。長年、路上生活者におにぎりを配る「広島夜回りの会」で活動するカトリックの肥塚倅司神父(70)や、路上生活者に温かい食事を提供する韓国の教会活動を知る聖公会の小林尚明牧師(50)の意見も聞き、手作りのカレーライスを振る舞うことにした。

しかし、実際に始めると、迎える信徒たちの表情は硬く、受け渡しなどの振る舞いにぎこちなさも。「こちらに先入観や

「警戒心ほぐれる」

警戒心があったようだ」と肥塚神父。やがて回を重ね、皆の表情も和む。「食事の受け渡しや片づけなど、お願いしたことばかりと守ってくれるし、感謝の言葉も掛けてくれる。互いに信頼関係が生まれた」

幟町教会に通う前田輝男さん(79)は「安佐北区に、郷里に近い九州出身の参加者と意気投合。同じテールでカレーを食べながら古里や親の話をするようになった」と喜ぶ。石崎ミチエさん(64)は「安佐南区」は「カトリック信徒として何か社会に役立つことを、と思っていたが、いい活動に出あえた」

情報交換 活発に

集まる人たちにとって、心の憩いになっていくようだ。常連の男性(62)は「路上生活者の顔見知りとも一緒に温かい食事を囲めるので楽しく過せる」と言う。肥塚神父も、夜おにぎりを持って一人一人の寝場所を訪ねる「夜回りの会」で出会う時の彼らの表情とは違ふと感じている。「昼間の日差し、温かい食事、知人やスタッフとの触れ合い。全てにほっとできるのでは」

「教会は何をすべきかと語り合うこともある」と言う肥塚神父と小林牧師。活動はその一つの答えともいえる。他の福祉団体や教会との情報交換も増えている。昨年11月からは広島県社会福祉士会などが、年1回だった路上生活者への昼食提供と生活相談の場を定例化した。両教会の活動がない奇数月の最終土曜日に中区千田町の市社会福祉センターで開くようになった。小林牧師は「こうした活動が広がり、困っている人を皆で支え合う社会になっていけば」と期待する。